

スモン調査研究協議会研究報告書

No.10

昭和 46 年度微生物部会研究報告

昭和 47 年 3 月

スモン調査研究協議会

序

本書は実質的にはスモンをめぐる微生物学的研究に関する第二の報告集である。しかし前回の分は病原班研究報告という形で、キノホルムに関する実験研究報告も含まれていたの
で、今回の報告は唯一の純粋な微生物学部会の研究報告書となる。

スモン調査研究協議会は昭和47年3月13日の総会において、「スモン患者と診断された患者の大多数はキノホルム剤の服用によって神経障害を起したものと判断される」という結論を下した。では微生物学的研究は無駄であったかという点、ウイルス・マイコプラズマの病原的意義についてのネガティブの成績は派手ではないが、上記の結論を下すための陰の支持者として立派な役割を果たして来たといえる。またスモン患者の腸内菌叢とキノホルムの係わり合いに関する地道な研究成績は腸内細菌学に新しい一頁を加えたものである。

とくに問題になったいわゆる「井上ウイルス」の追試成績は実際は新しいスモン班の中で昭和47年7月20日検討会を行い、特に新しい事実が現われない限り追試研究を凍結するという処置をとったのであるが、その時に発表された成績の多くが、II. ウイルス学的研究の中に含まれている。組織上はスモン調査研究協議会から特定疾患調査研究スモン班へ発展的に変わったが、スモンの場合は研究は連続的に進行しており、ある程度報告がオーバーラップするのは止むを得ないところであった。

スモン調査研究協議会

会長 甲野礼作

目 次

序	1
I 細菌学的研究	
A スモンと腸内細菌叢	
Vioform 経口投与によるマウス腸管内細菌叢の変動と宿主の反応	3
小沢 敦ほか	3
キノホルム投与によるSMON様症状発現に対する腸管感染の意義	10
三輪谷俊夫	10
サル・ニワトリの腸内細菌叢におよぼすキノホルムの影響	12
光岡 知足	12
キノホルムの健康人腸内細菌叢に及ぼす影響	15
中谷林太郎ほか	15
数種類の腸内細菌叢構成菌群のキノホルム感受性	16
中谷林太郎ほか	16
スモン剖検例の細菌学的検査成績	20
中谷林太郎ほか	20
SMON患者の腸内細菌叢——連続検査成績とキノホルム服用	23
中谷林太郎ほか	23
キノホルム投与中止1年後のSMON患者の腸内細菌叢の変化	25
中谷林太郎ほか	25
B スモンとマイコプラズマ	
マウスにおける <u>Mycoplasma neurolyticum</u> の病原性に関する実験的研究	31
尾形 学ほか	31
イヌを用いたマイコプラズマおよびキノホルムの接種実験例	37
俵 寿太郎ほか	37
SMON患者舌よりのマイコプラズマの分離	41
中村 昌弘ほか	41
SMON患者の舌苔および糞便より分離したMycoplasmaの同定	44
本間 遼ほか	44
SMON患者由来 <u>Mycoplasma salivarium</u> によるCFおよびPHA反応	49
富山 哲雄	49

II ウイルス学的研究

S M O N のウイルス学的研究 — 1971 —	井上幸重ほか	55
S M O N 患者脊髄液の新生マウス接種実験	松岡 幸彦ほか	67
「井上ウイルス」の追試に関する分担研究報告	奥野 良臣ほか	69
井上博士のスモン関連ウイルスに関する追試	飯田 広夫ほか	70
S M O N 病原因子の検討	北原 典寛ほか	75
S M O N 病原因子の検討		
2. 接種マウスの病理組織学的検索	内田 信之ほか	80
スモン研究班報告	石田名香雄ほか	88